

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（経営者）	・今秋の店内改装効果で、特にファッション関連はかなりの伸びが期待できる。今後極端な農産物被害や天候異変、社会的事変がない限り店頭は好調に推移する。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・来街者増が極端にみえるわけではないが、飲食店などで健闘している店が徐々に出始めている。それが物販店まで好影響を及ぼすよう期待している。
		百貨店（販促担当）	・9月にはグランドフロアの改装があり、当店の強みの化粧品、雑貨、特選ラグジュアリーのオープンで売上増をねらう。
		スーパー（経営者）	・夏祭り、お盆を過ぎてても好調な販売は変わっていない。
		スーパー（経営者）	・8月の客の動向からは経済的なゆとりが感じられる。夏のボーナスの動向、客の買物の中身などから、先行きに明るさがみえてきた。
		コンビニ（経営者）	・これからの季節は客単価が上がる傾向があるが、今年は来客数もプラスで推移しているの期待できる。来月からはキャンペーンも計画されているので、さらに客単価が上がる。
		コンビニ（経営者）	・寒くなってくるので来客数、売上が落ちる時期であるが、さんまの水揚げがあるので地域の景気は良くなる。
		家電量販店（従業員）	・年末にかけて新製品が季節商品、AV、白物と続々登場する。特に、テレビでは大型化が図られ単価アップが期待される。また、パソコンも新OSの登場により流れが良くなる。よって、3か月先あたりから売上が徐々に上向いてくる。
		乗用車販売店（経営者）	・10月以降、各メーカーによる新型車攻勢が需要を喚起する。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は回復基調にあるが依然として販売単価は低いままである。しかし、新型車投入が近いので1台当たりの利益は確保できる。
		住関連専門店（経営者）	・耐久消費財を扱っているが、来月、再来月の受注が数件入っているの、売上を伸ばせる。
	高級レストラン（支配人）	・年末の予約受注が早めに入ってきており、特に12月は予約が取れる日が少なくなっている。	
	通信会社（営業担当）	・10月からの携帯電話の番号ポータビリティ制度の導入を機に、業界はがらっと変わり、良くなる。	
	通信会社（営業担当）	・製造業、建設業において設備投資の予定がある。この傾向が他業種にも広がることを期待している。	
変わらない	一般小売店〔茶〕（経営者）	・売出しのチラシが入っても、以前のように行列に並んでまで買う、というような華々しさが影を潜めた。消費者の行動が冷静になってきている。この夏に旅行に出掛けた知人も多く、外で金を使い、日常は控えめにするというスタイルが定着したようだ。	
	百貨店（経営者）	・衣料品を中心に天候次第の面もあるが、それとともに客への販売促進策が大きく影響する。客は食品以外は豊富に持ってあり、購買動機を高める仕掛けが必要不可欠である。現状のトレンドから、そのような仕掛けをした上での現状維持を見込むので、何もしなければ当然悪くなる。	
	スーパー（店長）	・原油高の影響による原価の上昇分を商品単価に転嫁できない状況が続き、客単価の回復が見込めない。	
	スーパー（総務担当）	・競合店との商圏の奪い合いも続いているが、客の動向に大きな変化はない。大手企業や製造業での好況が地方には波及していない。原油高騰、介護保険負担増、厚生年金負担料率の改定、その他公共料金の推移、金利推移などの影響が懸念される。	
	スーパー（企画担当）	・店舗間の格差は大きいものの、全体として季節商材、食品を中心に来客数は戻りつつある。しかし、単価ダウンとの相殺により、売上見込みは依然として厳しい。	
	コンビニ（エリア担当）	・景気が良くなる顕著な状況がみられない。大きな流れの中では大企業を中心に上向いているという状況はあるのだろうが、日常的な部分では相変わらず厳しい状況が続いている。	
	コンビニ（エリア担当）	・9月からの酒類販売の完全自由化により、一部の店舗では新規に販売を始められることで売上増が見込めるが、全体的には競争が更に激しくなり厳しい状況が続く。	
	コンビニ（店長）	・原油価格の高騰など、一般消費者の心理に悪影響を及ぼすような負の材料が多いので、前途が楽観的とはいえない。	

衣料品専門店（店長）	・原油価格高騰のつげが、衣料品の支出に徐々に影響してくるが、価格と価値のバランスがとれた上で、たんず在庫にない商品の提案に対しての需要は変わらない。	
衣料品専門店（総務担当）	・商品構成は次シーズンのものを投入しているが、買換え需要などの動きがみられず、今後、改善するようには感じられない。	
乗用車販売店（経営者）	・新型車への期待は大きなものがあるものの、既販車の販売不振で、低迷状態が継続する。	
乗用車販売店（経営者）	・三大都市圏のような景気回復が地方では感じられない。車自体の品質向上による長期使用の傾向が増えてきた。ガソリン価格の上昇や維持費を考えると小型車から軽自動車へのシフトが増えてきた。また、60歳以上の人は運転のしやすさを考慮して小型車、軽自動車を求める傾向がある。それにしても数量自体が少なく厳しい状態である。	
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・これからは日本酒など寒い季節の商品が動いてくるが、底を打ったとはいえ、アルコール飲料全体の消費が固定化されており改善は見込めない。しばらくは現状の水準で推移する。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油の高値安定が続く見通しで需要期に向かうため、石油製品価格の高止まり傾向が続く。地方の景気の回復が遅く、需要の回復が早急には望めない。	
一般レストラン（経営者）	・当店の予約状況、同業者の話などでも大きな動きがない。	
一般レストラン（経営者）	・客から将来の景気が良くなるような話が聞かれない。当店は22年営業しており、景気の良い時は独特の雰囲気があるが、現在はそれが感じられない。	
その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・新幹線の開業をにらんだ公共工事が行われているにもかかわらず、今現在の景気が悪い。2、3か月先にも改善するような材料がなく、悪い状態変わらない。	
観光型旅館（経営者）	・9月以降も出足が良くないので、9月限定企画を各方面に露出させた。10月初旬には岩盤浴、エステなどのスパ施設をさらに充実させていく。低迷している時にこそ、ソフトを磨くのはもちろん、ハードもからめた目に見える話題提供が必要である。	
都市型ホテル（スタッフ）	・本来であれば客の動きなどから景気が底上げしてくるというべきだが、当地域の場合、7、8月に競合するホテルが3軒開業しており、9月以降はその結果が如実に表れてくる時期でもあり、総合すれば変わらない。	
都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼の受注件数が伸びていない。宿泊部門に限ればやや回復傾向といえる。	
都市型ホテル（スタッフ）	・企業、法人の利用は安定すると思われるが、今後も婚礼利用は厳しい。	
旅行代理店（従業員）	・月ごとのばらつきはあるが、先行きの受注状況の数字が芳しくない。	
テーマパーク（職員）	・前年8月以降、安定して業績が好調である。	
遊園地（経営者）	・原油価格高騰で、ガソリンだけでなく様々な商品の値上げの動きが出ている。自社コストの上昇や家計への影響を懸念している。	
美容室（経営者）	・夏のボーナスでもあまり影響がなく、前年割れの状態が続いている。冬のボーナスの流れがどうなるかがキーポイントになる。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・中小の食料品スーパーの経営者によると、顧客である年配者の食品購入額が目立って低下している。国民健康保険等の値上げが、年配者の生活防衛の意識を働かせているのではないかと。また、県外の客からはガソリン代の高騰についての声がよく聞かれるようになり、心配である。
	百貨店（売場主任）	・大手ショッピングセンターの開店に伴い客の流れが変わるが、今後、集客効果のある大型催事などを予定している。従来の百貨店の客にアピールできるような内容の充実が必要である。
	スーパー（経営者）	・当月は異常な暑さで野菜、果物が値上がりしており、肉、魚も平年より高めであったため、数字的には良かったが、来月以降秋らしくなり価格が安定すれば、数字は若干悪化する。
	スーパー（店長）	・9月中旬、市内に大手の大型ショッピングセンターが開店することから、広域にわたり大きく影響を受ける。
	衣料品専門店（経営者）	・店内は既に秋物中心となっているが、残暑が厳しくスタートから苦戦している。

		衣料品専門店（経営者）	・来月中旬に県内では最大規模のショッピングセンターが市内にオープンするので、その影響が2、3か月は継続する。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・天気に左右されやすい業種とはいえ、消費は全体的に冷え込んでいる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・値上がりによる客の買い控えが顕著になっており、これ以上の単価上昇はかなりきつい。また、シーズンを向かえる灯油の販売も厳しくなってくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・3、4か月から半年先の受注状況が悪くなっている。
		タクシー運転手	・新規参入が増えて、来客数も減っている。
		観光名所（職員）	・先行きが読めないフリー客は増加しているが、団体の予約は減少している。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・燃料代金の高騰はゆゆしき問題である。自動車修理にかけられる予算が削られて少々調子が悪くても修繕しなくなった。金利の上昇も同じ傾向に拍車をかける。
	悪くなる	商店街（代表者）	・9月中旬に郊外型大型店がオープンの予定であり、大きな影響を受ける。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・繁華街である当店地域にも二極分化の進行が影響している。良い面よりも悪い面が多く反映しており、不景気にあえいでいる。当店の顧客である店のオーナー、地主、タクシー運転手なども、景気の悪さを店先でこぼしている。
		コンビニ（経営者）	・販売促進のために大型のキャンペーンを連続的に展開しているが、一向に来客数が伸びない。今後、客層に合わせた新しい形態のコンビニ経営を目指す。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・7、8月の売上げが悪く、また、これからの価格競争、ガソリン価格上昇等の影響もあり今後非常に悪い事態になる。
		観光型旅館（経営者）	・全国的に、極端に集客力の落ちている温泉地、観光地がスポット的に発生しており、当温泉地もその悪循環に落ち込んでいる。9月は全く予約のない状況であり、紅葉シーズンや連休を迎えるが、大きな危機感を感じている。
企業動向関連	良くなる	農林水産業（従業者）	・当月は雨がほとんど降らず、桃の品質が非常に良いので、来月以降に収穫するものも高価格での販売が期待できる。
	やや良くなる	建設業（企画担当）	・製造業における設備投資の案件が現実的になってきている。今までは東北地区は取り残された感があったが、徐々に景気回復の実感が出てきた。
		広告代理店（従業員） 広告代理店（営業担当）	・不動産関係、観光開発関係の案件が増加している。 ・10月に始まる携帯電話の番号ポータビリティ制度の導入による競争の激化で、この分野での広告が活発になる。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・輸出向けの自動車部品は好調を維持するが、現状を上回る水準にはない。為替水準が懸念される事項である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・大企業の業績回復は中小企業へのしわ寄せの結果によることも大きく、その状況が変わる見込みも今のところない。
		建設業（経営者）	・短期的には良いが、長期的には金利や資材の高騰が心配である。
		輸送業（従業員）	・原油の高騰で荷主の出荷が鈍化傾向である。
		金融業（融資担当）	・一時的な活気はみられるものの、根本的な回復要因は見当たらない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・倒産する会社、リストラする会社、顧客の収入が安定せず未収金の多い会社があることが集金時の話題からわかる。資金繰りの厳しさを支出の抑制でカバーする動きがしばらくは継続するので、低迷した状況は変わらない。
		公認会計士	・製造業は受注価格の低下を受注量の増加で補っており、景気は上向いているが、都市型ホテル、旅行業などのサービス業は依然として落ち込みが続き、景気の改善は期待しがたい。
		コピーサービス業（経営者）	・大型公共工事が始まっているところもあり、コピーサービス業は上向き傾向にあるが、販売部門は、販売数量の減少、販売価格の低下により厳しい状況が続く。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・得意先である住宅会社各社の受注予測は「一定レベルでの安定した状態が半年くらい続く」というものが多い。
	やや悪くなる	食料品製造業（経理担当）	・競争の激化と原材料の値上がりで、受注面と収益面の両方でより厳しくなる。
		輸送業（経営者）	・主要荷主は受注生産をしているが、「受注が減少している」と連絡されているため、荷動き、売上の減少は避けられない。

		通信業（営業担当）	・法人ユーザーの中で、原油高の影響を受ける中小企業では、価格に対する反応が敏感になっている。それぞれの社内事情により回線導入を先送りするなど、風向きが消極的な方へ変わりそうな雰囲気である。
		司法書士	・登記の事件数について、地方と都会の差が著しく、今後もその傾向が続く。消費者金融への返済に窮する多重債務の相談も引き続き多い。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	新聞社 [求人広告] （担当者）	・郊外だけではなく、中心街でのビル建設もラッシュで、それに伴い東京から流通系が進出してくる予定があるので、募集の増加が見込まれる。ただし、それによって地元の流通系が淘汰される危険性もあるので、一概にウェルカムという状態ではない。
		職業安定所（職員）	・依然として非正規社員が多いものの、有効求人倍率は確実に上向きになっている。
	変わらない	アウトソーシング企業 （社員）	・県内で落ちている分、他県からの受託がでているので、トータルでは変わらない。
		職業安定所（職員）	・一般求人も増加しているが、正社員の求人が3割程度と少なく、非正社員の占める求人が依然多い。
		職業安定所（職員）	・求職者の正規雇用志向は強いものの、企業側の態度は変わっていない。
		職業安定所（職員）	・数年ぶりに求人申込を再開した事業所や初めて求人申込する事業所が増えているものの、求人数は前年同期を下回っており、また、正社員以外の求人の比率が増えており、良くなるような兆しが見つかからない。
		職業安定所（職員）	・今後も求人数の増加傾向は続くと思われるが、増加の主要因は非正規社員求人であること、管内主要産業の動向をみても先行き不透明感や原油高の影響が若干出ていること、雇用過不足は適正となっていることから、正規社員の大幅な増加は当面見込めない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・原油の高騰、金利の上昇などマイナス要因もあり、繊維業の零細事業所で休業の動きがある。また、個人消費の低迷も心配される。
	悪くなる		